

## 2019 春季生活闘争アピール

# 底上げに向けた今後の取り組みについて ～ 賃上げをすべての働く者へ ～

本日、2019 春季生活闘争における最初のヤマ場を迎えた。

今次闘争において組合は、「経済の自律的成長」の実現と将来不安の払拭、組合員の生活の安心・安全、人材の確保・定着に向けた賃金水準改善の必要性、経営計画達成へのこれまでの努力・頑張りなどを強く主張し、月例賃金の引き上げにこだわった交渉を重ねてきた。

経営側は、賃上げに対する社会的な要請や期待、賃金水準を意識した要求については一定の理解を示しつつも、経済や事業の先行き不透明感、過去5年間の賃上げによる賃金水準の上昇、賃上げにこだわらない柔軟な手法の必要性などを理由に、賃上げには極めて慎重な判断が必要との厳しい態度を示し、例年以上に交渉は難航した。

しかし組合は、企業・産業の存続と成長のためには同じ職場で働くすべての「人への投資」が必要と繰り返し主張し、月例賃金への配分に徹底的にこだわり、粘り強く交渉を追い上げた結果、本日現在、多くの組合で有額回答を引き出している。満額回答や昨年実績を上回る回答を引き出した組合も少なからずある。

すべての働く者の「底上げ・底支え」「格差是正」を実現するためには、本日までに示された回答を土台とし、続く中堅・中小組合はもとより、未組織を含めたすべての働く者の賃金引き上げに確実に波及させていかなければならない。第5回戦術委員会確認事項を踏まえ、以下の事項に取り組むことを要請する。

### 記

1. 交渉中の組合は、先行する組合が引き出した回答を土台として要求主旨に沿った回答を引き出すべく、3月月内決着に向けて全力を尽くす。また、非正規労働者の雇用の安定と処遇の改善に向けて、正規・非正規の同時決着をめざす。
2. 「すべての労働者の立場にたった働き方」の実現に向けて、長時間労働の是正やいわゆる「同一労働同一賃金（職場における雇用形態間の不合理な処遇の格差の是正）」の実現についても、積極的かつ前向きな回答を引き出す。
3. 構成組織は、交渉中の組合に対する訪問オルグなど、要求主旨に沿った回答引き出しに向け全力を尽くす。大手組合はグループ・関連会社組合の支援を強化する。
4. 地方連合会は、地場共闘のもとで構成組織の地方組織と連携し、中小・地場組合の交渉を支援するとともに、回答内容などの情報をタイムリーに共有・提供し、効果的なアピールを行う。

連合は、構成組織、地方連合会、組合との連携を強め、月例賃金引き上げの流れを継続させるべく、波及の強化をはかっていく。

2019 年 3 月 13 日  
日本労働組合総連合会  
中央 闘 争 委 員 長

神津 里季生